アーカイブ室新聞 (2011年8月19日 第520号)

国立天文台・天文情報センター・アーカイブ室 中桐正夫

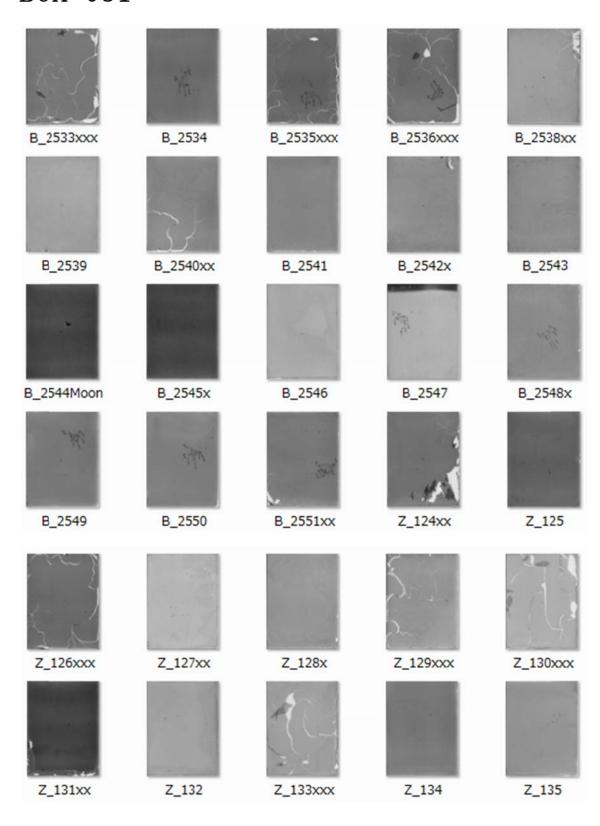
*ブラッシャー天体写真儀の乾板画像取り込みーその7:BOX-031~040-

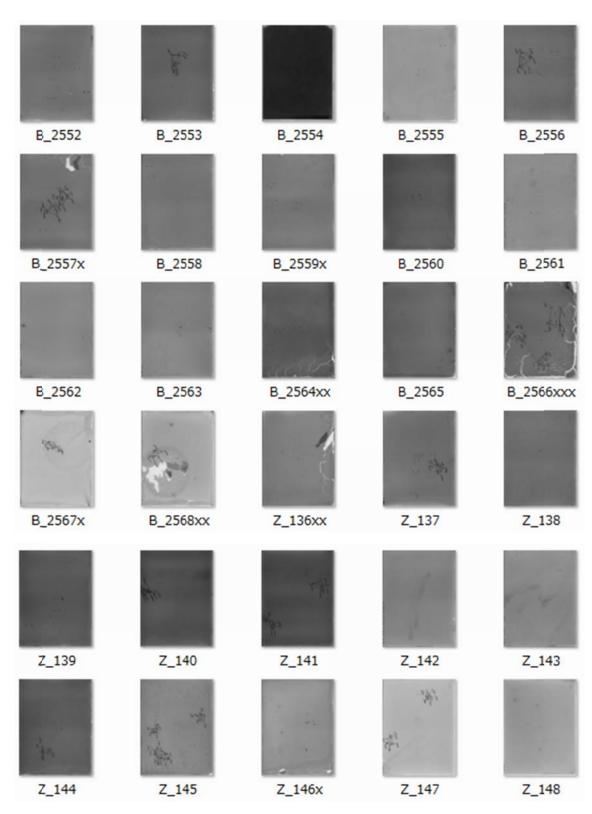
筆者はブラッシャー天体写真儀の天体写真乾板が整理され、箱に入った状態のリスト作りを行い、アーカイブ室新聞第 482 号~第 485 号に「ブラッシャー天体写真儀による天体写真乾板についてーその 1一、その 2、その 3、その 4」と報告して来た。そして、アーカイブ室新聞第 511 号(2011 年 7 月 6 日)、512 号(2011 年 7 月 7 日)、513 号(2011 年 7 月 8 日)、515 号(2011 年 7 月 22 日)、518 号(2011 年 8 月 3 日)、519 号(2011 年 8 月 3 日)に「ブラッシャー天体写真儀の乾板画像取り込みーその 1ー(526~1127)」、「同ーその 2ー(1027~1157)」、「同ーその 3ー(1158~1193)」、「同ーその 4ー」、「同ーその 5ー」、「同ーその 6ー」という記事を書き、その段階で 30 箱分 900 枚の乾板について報告した。今回はこのシリーズの第 7 弾である。ブラッシャー天体写真儀の天体写真乾板は 141 個の箱に整理され保管されている。それらの天体写真乾板をデジタルデータとして取り込む作業を筆者が引き受けている。そこで前回から 10 箱分ずつ報告している。今回は BOX-031~040 の 10 箱分について報告する。

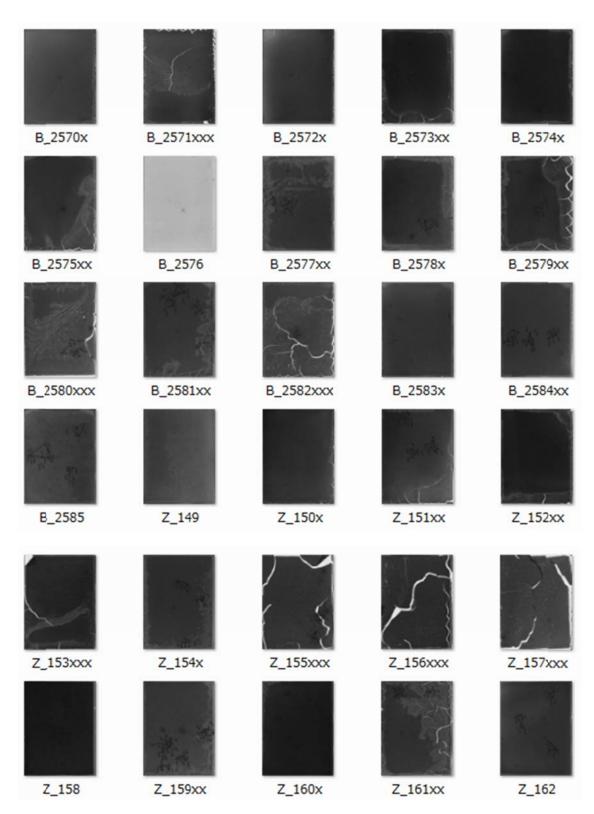
1 箱に基本的には 30 枚入っているので、1回に 300 枚の乾板のサムネイルを示す。データはグレースケールで、600dpi で取り込んでいる。1箱30枚分を1ページで表示する。

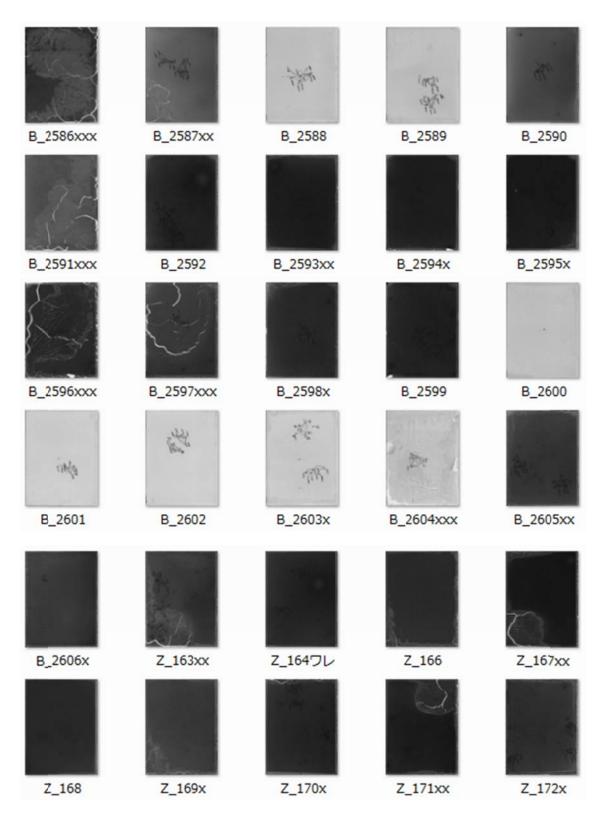
ブラッシャー天体写真儀による天体写真乾板は、現在では図書室の貴重書庫と同じ部屋で非常に条件のいい場所に保管されている。この状態は元国立天文台職員であった中村士氏が1990年頃整理され、国立天文台南棟(元総合情報棟)が建設され図書室がその建物に移され、貴重書庫、乾板保管室が出来た際に移され現在に至っている。

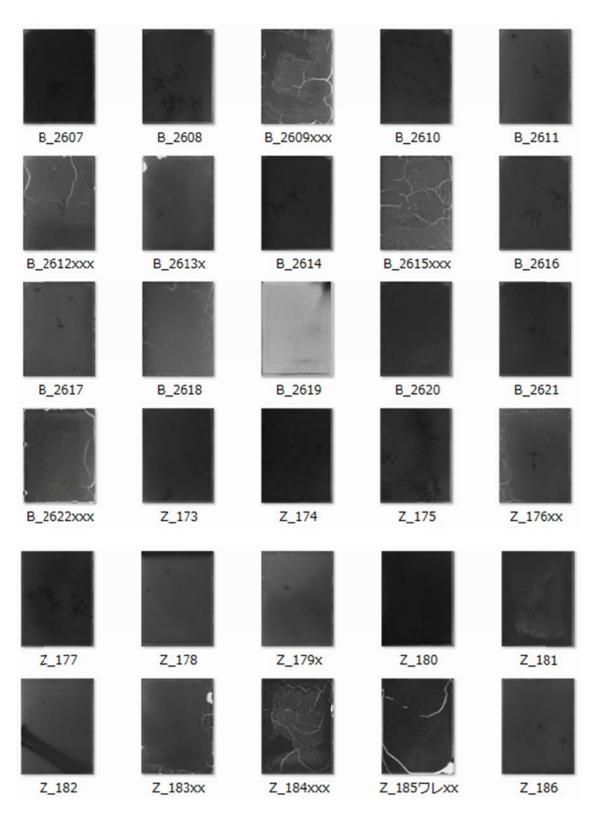
中村士氏が整理された時点で、すでにかなりの乾板の膜面が剥れており、膜面の剥れた 乾板は中性紙で包む際、元の硫酸紙(トレーシングペーパー)で包んだまま中性紙で包ん で保管箱に収められている。しかし驚くほど膜面の傷みがひどく、完全に剥れたものも少 なくない。

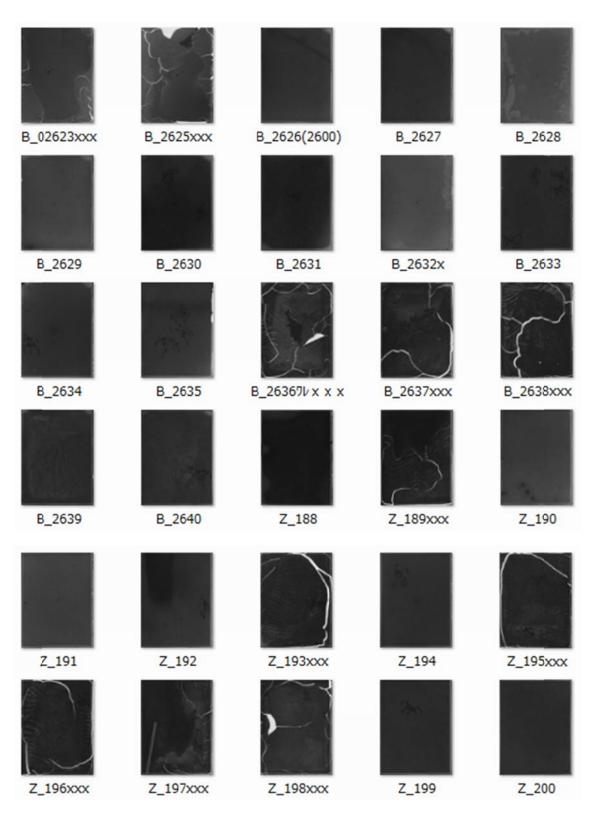


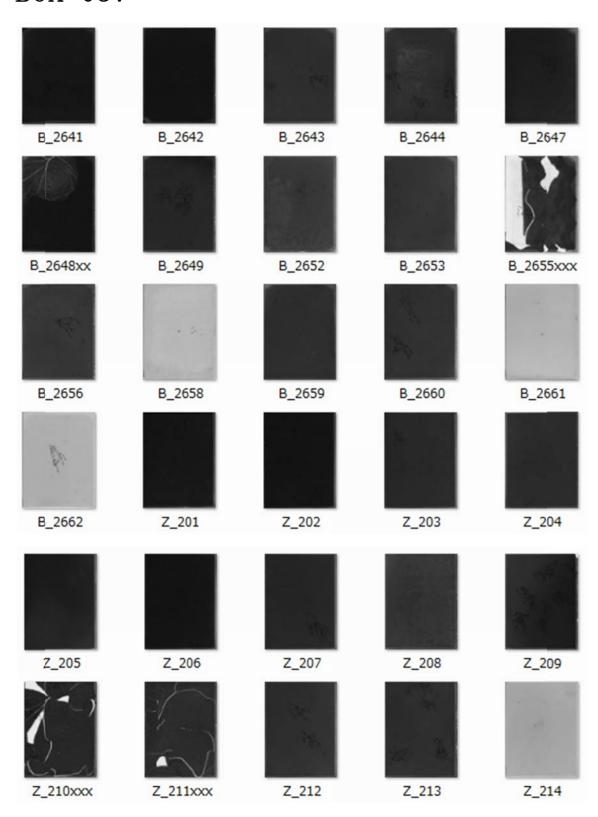


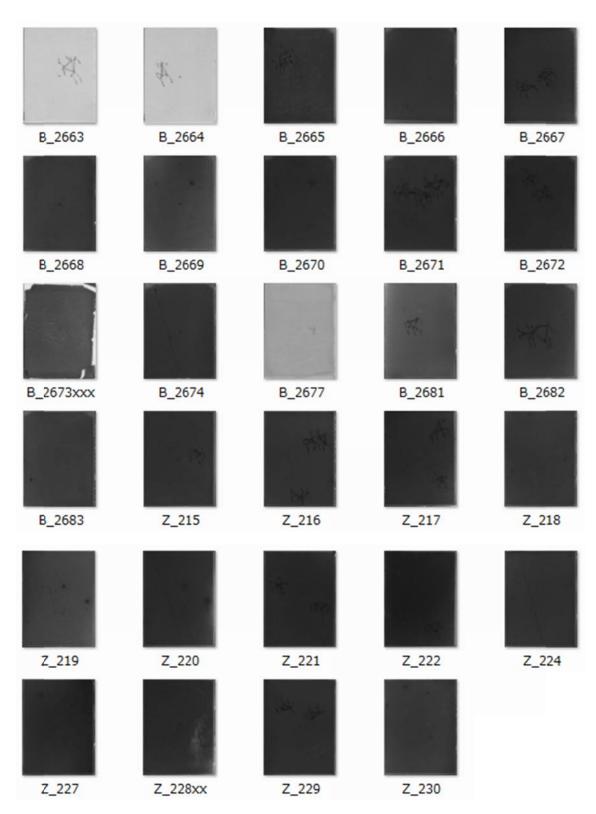


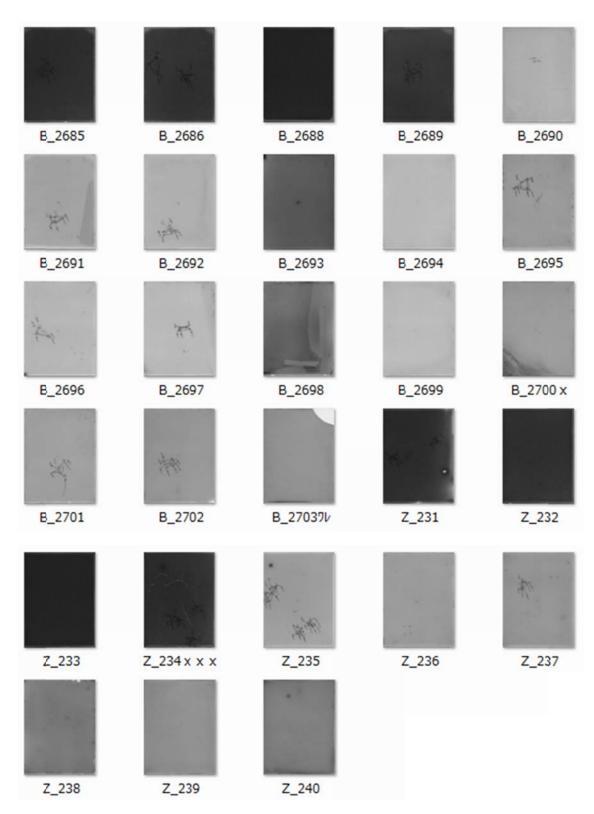


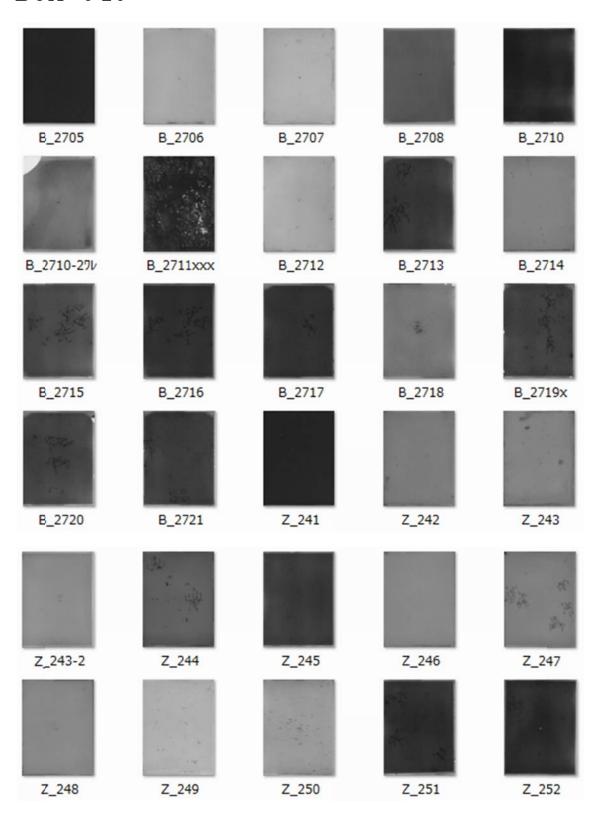












これらアーカイブ室新聞の記事にお気づきのことがあれば、編集者中桐にご連絡いただければ幸いです。中桐のメールアドレスは、arcnaoj@pub.mtk.nao.ac.jp